

平成29年8月4日(金)
奈良新聞

飲水思源

自動車販売のリーダー

2

菊池武三郎伝

転校した菊池武三郎の一面があった。以来は、学生寮に入って生活を送るようになった。中学生時代の武三郎は比較的小さい少年だったが、スポーツは得意だった。

5年生のときには野球の選手になったが、試合中にポーズをとるくせがあり、級友たちからは「かっこいいぞ」と冷やかされた。武三郎には少年時代からスタイリスト

の一面があった。以来は、スタイリスト、おしゃれは生涯のものとなった。

在学中に明治天皇が崩御。大正2年に中学校を卒業すると、大学進学を志して上京し、明治大学に入学した。

しかし大学2年生となった6年に、父の武宣が亡くなった。兄が早世していたこともあり、武三郎は大学を学業半ばで中退し、宮崎に帰らざるを

大学そして大阪へ



父親の菊池武宣

父の死後に働く決意

得なくなった。

帰郷した武三郎は菊池医院を整理し、自らは都会に出て働く決心を固めた。何不自由のない生活をしてきたが、そのとき

から自分の力だけで生きていくこととなった。

病院の整理を終えた7年春、大阪に向かう。世の中は第1次世界大戦後の好景気で、大阪も活況

を呈していた。

武三郎は、姉の夫の紹介で機械工具商「ホーン」に就職し、セールの仕事を覚えた。その後、梁瀬自動車大阪支店に転職し、自動車との縁を持つこととなった。

外車輸入商社として長い歴史を持つ同社は、4年に三井物産が自動車部

武三郎が入社した9年

は、約1400台の販売実績(このうち乗用車はシボレー約500台)。まだまだ自動車の普及していない時代で、自動車セールスマンの仕事は、まずは車を買ってくれという人を探すことだった。

11年、28歳となった武三郎は、伊藤秀と結婚。大阪に居を構えた。ようやく

日本にも、自動車時代の夜明けが訪れようとしているときであった。

(文中敬称略)
つづく、毎週金曜日
掲載